



須坂市立須坂小・須坂支援学校 校長室だより

令和4年4月14日

第1号

みすどかる

住所:須坂市須坂 780

印刷:須坂小学校職員室

発行責任者:竹村信之(校長)

令和4年度須坂小学校・須坂支援学校がスタート ～「共にある学校」のよさを生かした学校づくりを進めます～

学校の桜も満開となり、桜の下で元気に遊ぶ新入生の声が響く毎日です。4月6日に須坂小学校、7日に須坂支援学校の入学式が行われ、小学校は34名の新1年生、支援学校には小学部4名・中学部4名の新1年生が入学し、令和4年度がスタートしました。

開校149年目の須坂小学校、開校12年目の須坂支援学校、両校の最大の特色は県内唯一の

「小学校と支援学校が共にある学校」ということです。「障がいのある子もない子も、地域の子どもは地域で育てる」という地域の皆様の熱い思いを大切に受け止め、子どもたち一人一人がお互いのよさや違いを認め合い、多様性を包み込む学校となり、誰もが「明日もまた来たい」と思える学校であるよう、教職員一同力を合わせ頑張っています。

本年度、須坂小学校・須坂支援学校共に、「学校教育目標」及び「めざす子どもの姿」を新たに決め出しました（裏面参照）。両校の特色を最大限に生かし、小学校は「自分から」「つながる」「認め合う」を、支援学校は「自分から、自分で、せいいっぱい」をキーワードに、子どもと共に取り組んでいきます。

本年度、須坂小学校・須坂支援学校共に、「学校教育目標」及び「めざす子どもの姿」を新たに決め出しました（裏面参照）。両校の特色を最大限に生かし、小学校は「自分から」「つながる」「認め合う」を、支援学校は「自分から、自分で、せいいっぱい」をキーワードに、子どもと共に取り組んでいきます。

小学校の入学式の保護者代表あいさつの中で「親にとって我が子は『世界に一つだけの花』。芽生えたばかりの小さな種です。今後どんな花を咲かせてくれるのでしょうか。…小学校6年間でどんな花を咲かせてくれるのか、とても楽しみです。」という言葉いただきました。この思いを小学校・支援学校両校の職員みんなが心に置き、新入生も含め在校生一人一人が、しっかり根を張り、葉を茂らせ、花を咲かせることができるよう、精一杯努めていきたいと思えます。

保護者の皆様、地域の皆様、本年度も須坂小学校・須坂支援学校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。



満開の桜の下で、小学校・小学部・中学部の活動が元気に始まっています

令和4年度の学校教育目標・めざす子どもの姿

須坂小学校

【学校教育目標】

自ら学び続け、共生社会を主体的に生きる児童の育成

あした文化の花をつみ 真理の泉ともに汲み 我らが道を求めゆく

めざす子どもの姿

「自分から」

- ・めあてをもちねばり強く学ぶ子ども
- ・自ら考え、判断し、表現する子ども
- ・健康に気をつけ、体をきたえる子ども
- ・自ら気づき進んで役割を果たす子ども

「つながる」

- ・友だちと協働して学ぶ子ども
- ・地域とつながり、ふるさとに誇りをもつ子ども
- ・須坂支援学校との交流を通し、共に成長する子ども

「認め合う」

- ・自分と友だちの良さや違いに気づき、互いの個性を大切にできる子ども
- ・多様な考えを認め合い、他者を受け入れ、共に成長する子ども

今年度の重点的な取り組み

「学び」づくり

- ① 自ら考え、共に学ぶ授業づくり
 - ・自分の考えや思いを表現する場を大事にした授業
 - ・友の表現の意味を理解しながら追究する授業
 - ・今日の友との学びを自分の言葉で振り返る授業
- ② 安心して学べる授業づくり
 - ・UD化と個のニーズに応じた支援
 - ・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践

「つながり」づくり

- ① 須坂支援学校との交流及び共同学習
 - ・学年に相応した交流学級との年間を通じた交流及び共同学習
 - ・共に参画し創る行事
- ② 地域の「ひと」「もの」「こと」に学ぶふるさと学習 (ESD 推進)
- ③ 幼保との連携
 - ・園小合同研修による子ども理解とスタートカリキュラムの実践

「心と体」づくり

- ① 安心できる人間関係・学級づくり
 - ・自分や友だちの良さをみつける活動
 - ・言葉を大切にする学級活動
- ② 運動習慣・体力づくり
 - ・運動量の確保や目的をもった授業づくり
 - ・体を動かす遊びの推奨
- ③ 感染症予防・健康教育
 - ・感染症予防の習慣化、健康な生活習慣づくり

須坂支援学校

【学校教育目標】

自分の力を精一杯発揮しながら、仲間とともに地域で心豊かに生きる子どもの育成 <めざす子どもの姿> 「自分から、自分で、せいっぱい」自分らしく輝く子ども

令和4年度の重点

○「自分から、自分で、せいっぱい」につながる生活づくり・授業改善

- ① 個別の指導計画を基にした指導と評価
- ② 子どもが主体的に活動する生活単元学習の追究
- ③ ICT 機器の有効活用による個に応じた学びの充実

○家庭・地域との連携強化による支援の充実

- ① 家庭との丁寧な情報共有と対話
- ② 地域資源(医療・福祉・行政)と連携した支援会議、関係者会議
- ③ すぎか分教室との連携強化

○特別支援教育のセンター的機能の発揮

- ① 教育相談機能の充実(教育相談、巡回相談支援)
- ② 小中学校の特別支援教育の専門性向上への協力(研修、発信)

○共に学び、互いのよさを発揮し合い、理解を深める交流及び共同学習

- ① 須坂小学校との日常生活・合同行事での交流を通した相互理解の促進
- ② コロナ禍での常盤中との交流の充実
- ③ 副学籍校(居住地校)との交流の充実

○教職員の専門性向上への取り組み

- ① 学び続け、専門性を高める教職員研修
 - ・確かな子ども理解と人権感覚の研磨
 - ・障がい特性の理解とニーズに応じた適切な支援
- ② 専門性サポートチームを中核とした日常的に担任を支える体制づくり
- ③ チーム・ティーチングの機能強化
- ④ 学校評価を真摯に受け止め、授業改善・学校づくりに生かす

須坂小学校の「学びの場」について紹介します

本校では、特別な支援を必要とするお子さんの学びの場として通常学級だけでなく、特別支援学級、通級指導教室が設置されています。どこを読んでいるのかわからなくなってしまう、何度書いても漢字が覚えられない、緊張すると言葉がうまく出てこない、相手の言葉や表情から相手の気持ちを読み取ることが苦手、少しの刺激（音、人の動きなど）でも気になってしまい席に座って話を聞いていることが苦手・・・など本人ががんばっても、がんばろうと思ってもなかなか実力が出せずに困っているお子さん、教育的支援を必要とするお子さんに対して、保護者の方と相談しながら関係する職員が連携してチームで支援を行っています。

通常の学級での支援

- 全ての児童にとって参加しやすい学級づくり、分かりやすい授業づくり（ユニバーサルデザイン）をめざしています。
- お子さんの実態に応じて保護者の方と相談しながら、通常の学級の授業にチームティーチングとして教育支援員が入り、個別に声をかけるなどの支援を行っています。

特別支援学級

○菊2組（自閉症・情緒障がい特別支援学級） ※少人数で静かな環境の中、学習をしています。

- 原則として、小学校の該当学年の目標や内容を学習します。
- 各教科の学習は、必要に応じて下学年の各教科の目標及び内容に替えることができます。
- 学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした「自立活動」を行います。

○菊1組（知的障がい特別支援学級）*令和4年度は、在籍児童がいないためありません。

- 各教科の学習は、お子さんの実態に応じた目標や内容に替えることができます。
- 必要に応じて、各教科、道徳、特別活動及び自立活動を合わせて指導することができます。（生活単元学習等）
- 学習上または生活上の困難の改善・克服を目的とした「自立活動」を行います。

- * お子さんの実態に応じて、通常学級とともに学ぶ場面（交流及び共同学習）を大切に位置づけています。
- * 特別支援学級に在籍して支援を続けていく中で、お子さんの状況に改善がみられた場合は、保護者の方や関係職員で検討し学びの場の見直しをして、退級（通常の学級へ）することになります。

通級による指導

- 通常の学級での学習におおむね参加できるお子さんで、特定の分野での苦手さが著しく、困っているお子さんが、週に1～2回、1単位時間程度、須坂小学校にある通級指導教室に通って学習しています。
- 対象とする地域は上高井郡内（須坂市、小布施町、高山村）の全ての小学校です。
- 主に個別の学習で、本人の苦手な分野を補うための学習をしています。（教科学習の補充ではありません）

○桜組（ことばの教室：言語障がい通級指導教室）

- ことばや聞こえに気になるところがあり、支援を必要とするお子さんを対象としています。

○桃1・2組（まなびの教室：LD等通級指導教室）

- 学習の苦手さ（読み書きの困難さ、行やマス目の中に文字を整えて書くのが難しい、はさみなどの使用の不器用さ など）
 - 対人関係の苦手さ（状況にかかわらず話してしまう、一度こだわると切替が難しい など）
 - 集中の苦手さ（注意を保持して話を聞くことが難しい、少しの音や人の動きでも気になる など）
- これらのうちいくつかがあてはまり、支援を必要とするお子さんを対象としています。

上記のような学びの場や支援があるとともに、必要に応じて校外の専門家（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー 等）も交えて、みんなで支援方法を検討し、よりよい支援を進めていく体制を整えています。

学校には多様なお子さんがいます。お互いの違いやよさを認め合い、みんなで支え合い、笑顔になれるような学校でありたいと思っています。もし、お子さんのことで気になることや心配なことがありましたら、学級担任や特別支援教育コーディネーターなど 本校職員誰にでもお気軽にご相談ください。保護者の方と相談しながら、その子に合った支援の方法を一緒に探っていきます。



「世界自閉症啓発デー（4/2）」「発達障害啓発週間（4/2～8）」のイベントとして

4/8まで 校舎をブルーライトアップしました！



4月2日は「世界自閉症啓発デー」でした。日本では自閉症だけでなく、「発達障害」と合わせて理解してもらえるように、4月2～8日を「発達障害啓発週間」としています。この「世界自閉症啓発デー」のイベントとして、各地でシンポジウムや「ブルーライトアップ」などの取り組みが行われています。今年は、この「ブルーライトアップ」に須坂支援学校もぜひ取り組もう！と職員有志が準備し、4月2日からライトアップを始め、小学校の昇降口前の植え込みに3枚のパネルを設置し、階段からブルーライトを光らせています。また、南校舎塔屋の出窓部分には支援学校のキャラクター「どんちゃん」が光っていました。

ブルーは、「癒やし」や「希望」などを表す色として、自閉症のシンボルカラーとなっています。

この「世界自閉症啓発デー」や「発達障害啓発週間」の取り組みが、多くの方が発達障害等についての理解を深め、本人や保護者の方々の気持ちに寄り添った支援について真摯に考え、実践する契機となり、障害の有無に関わらず誰もがその能力を発揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の実現につながっていくことを願い、紹介しました。（ちなみに3月21日は「世界ダウン症の日」です。）



自閉症って？（世界自閉症啓発デー日本実行委員会の公式サイトより引用）

自閉症は、「常に自分の殻に閉じこもっている状態」と考えられたり、「親の育て方が冷たかったということが原因ではないか」と思われることがありますが、これは正しくありません。脳の発達の仕方の違いから「他の人の気持ちや感情を理解すること」「言葉を適切に使うこと」「新しいことを学習すること」などが苦手であり、一般的な「常識」と思われることを身につけることも苦手です。このため、真面目に取り組んでいても、誤解されることがあります。なお、自閉症の人たちは、とても「純粋」で、自分の感じたままに話したり、行動したりすることがあり、感覚が過敏であったり記憶が抜群な人もいます。このような、自閉症の人たちの行動や態度の意味を理解していただき、愛情をもって支援していただくことを願っています。自閉症の人たちは、周囲の愛情と支援によって大きく育つことができます。

私たちは皆、それぞれに異なる感性と個性を持っていますが、それを認め合い、互いに支え合いながら暮らしています。自閉症の人々はアンバランスな発達の仕方をしており、まわりの人たちには理解できない行動をあらわすことがあります。多くの人々の目には変わった行動に映るかもしれませんが、理解しにくい人たちと思われるかもしれません。そのために偏見や誤解が生じてくるのです。自閉症の人々の行動の意味を考え、「よい点」を見つけるようにして頂くと、自閉症の人々は社会の中で生き生きと暮らすことができます。

須坂支援学校、そして共にある須坂小学校には、地域の特別支援教育のセンターとしての役割が期待されています。これからも、様々な発信をしていきたいと思えます。